**説教20230903ローマ12：1-8マタイ16：21-28「朽ちない命に生きよう」**

**今日は敬老感謝の主日礼拝をお捧げしていますが、ここで皆さまにご報告をしておきたいと思います。長年当教会の礼拝に出席されていました、岡村康佐さんが先週日曜日の早朝、主の身元へと召されました。水曜日には別府市にある斎場で、洋一郎さんはじめ御親族の方々、御友人、教会の方々が集められ告別式が行われ、康佐さんに別れを告げ、新たな門出の祝福を主から受けることが出来ました。感謝でございます。今日の敬老感謝礼拝では、今、身元へと挙げられました康佐さんと共に、主に感謝と賛美を捧げて参りましょう。**

**では、聖書に聞いて参りましょう。マタイによる福音書 16章 21節**

**このときから、イエスは、「御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている」と弟子たちに打ち明け始められた。**

**この様に、エルサレムに向かっているイエス様は弟子たちに向かって、御自分の復活を預言されました。復活ばかりでなくて死をも預言されました。それも、時の権威者たちから多くの苦しみを受けて殺されるという、屈辱的な死を預言されました。**

**この御言葉に対して、弟子の一人であるペトロの返答は、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」というもので、ペトロはイエス様をいさめ始めたのでした。**

**ペトロは、この時、イエス様が語られた、屈辱的な死ということに強く反発しました。そのことに心奪われて、肝心の、「三日目に復活することになっている」という御言葉は耳に入らなかったようです。**

**ペトロという人は、先週の聖書箇所で立派に「あなたはメシア、生ける神の子です」とイエス様への信仰を告白した人ではなかったのか。そのペトロでさへ、将にその舌の根も乾かないうちに、御言葉を信じていない、或いは信じられないということを、口にしてしまったのでした。**

**そんなペトロに対して、イエス様は「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」と言って、ことのほか厳しい口調でペトロを戒められたのでした。**

**この聖書が語る、イエス様とペトロとのやりとりは、今も生きて働いている神様イエス様と、私たち人間との間柄を鮮明に物語っています。**

**私たちは、信仰告白した後も、普通に、イエス様の御言葉に従えなかったり、時には御言葉に逆らうようなことをしてしまいます。そんな不従順な振る舞いを、私たちは毎日のように犯していることでしょう。そんな罪人である私たち一人ひとりのことをイエス様は百も承知で、私たちの信仰告白を受け入れて下さるのです。そんな主イエスに私たちは、感謝と賛美を捧げるほかないのです。**

**私たちは今日も、主イエスに自らの罪を告白して、赦しを乞い、又、新しくされて、新しい命に生きる者へと生まれ変わらせて頂きましょう。**

**ペトロは、「御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、」というイエス様の御言葉に恐怖しました。その御言葉を文字通り素直に受け入れることが出来なかったのです。それはなぜかと言いますと、ペトロは、この時、自分なりの救いのプランを、自分の頭の中で構想していたからでした。この時の弟子たちは、ほとんど全員が、イエス様がこの地上において近いうち、それも今向かっているエルサレムで、その栄光を現し、その光によって、長老、祭司長、律法学者たちの悪が打ち滅ばされ、それに代わって自分たちがイエス様の側近として、この地で栄光ある生活に入ることが出来るといる、バラ色の将来をみづからの頭の中で具体的に思い描いていたのでした。**

**でも、イエス様の救いの御計画と言うのは、この世で終わることがなく、死をも滅ぼすという、それとは比較にならないくらい大きくて広いことでした。その御計画は「三日目に復活することになっている」という短い言葉で語られたのですが、ペトロたちは、悲しいかな、この御言葉のほうは聞き流してしまって、ちっとも耳に入れることは出来なかったのでした。**

**そのペトロも、復活のイエス様と出会ったのち、ローマへと赴いて、自らすすんで十字架に架かるという殉教の道を歩み、「三日目に復活することになっている」という御言葉に通りに、自らも朽ちない命に生きることが出来たのでした。**

**今日の聖書箇所から私たちが学び取れることはたくさんあります。私たちは主イエスの御言葉を聞いているようで、実は聞いていないということがあることでしょう。十字架にまつわる恐怖は、この地上で、日常的に私たちの生活を縛り付けています。私たちは、安全安心な平穏な自分たちの暮らしが続くことを願って、隣人が苦境に陥って苦しんでいても、それを自分には関係ないことにして、見て見ぬふりをしてしまう者たちであります。私たちは十字架を見上げていながら、実際には、十字架に一歩でも近づくことを恐れて、近づかないのです。しかし、私たちを朽ちない命に生かす、神の愛は、十字架の向こう側にあります。私たちはこの地上で、イエスキリストの苦難の十字架を、イエス様と共に体験しないでは、その神の愛に到達することが出来ないのです。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」というイエス様の御言葉は、当然、いまここに生きる、私たち一人一人に対するイエス様からのメッセージであります。**

**私たちは、ペトロの様に自分なりの救いの計画を立てがちであります。その計画はとても具体的であり、大概が、この地上での繁栄、家族や子孫が栄えていく事を願う者でありましょう。しかし、イエス様が、私たち人間に対して与えて下さっている救いの御計画と言うのは、そんな人間の計画よりもはるかに大きくて広くて深いのです。ですからそれゆえにそのあまりにも大きい神の計画を、私たちがとらえきれないでいるということが起こるのだと思います。**

**幸いなことに、今日のロマ書の箇所でパウロが、私たちが「自分の十字架を背負って、イエス様に従う」ということは、具体的にはどういう生活なのかを語っていますので、聞いて参りましょう。**

**その前に、聖書から離れまして、私のクリスチャンの友人についてご紹介したいと思います。彼は、今102歳になるおじいさんで、従軍の経験もありますが、戦後は商社に務め、アマチュアのバイオリニストとして今なおご活躍中であります。その彼は、毎年春ごろに、必ず、御自宅でのバイオリン演奏と歌曲の歌唱を録画したビデオをメールで私に送って下さいます。メールには次の様にあいさつ文が記されていました。「未知の世界へ　2023年6月11日、私の誕生日からちょうど半年たったことを記念し、「102.5コンサート」を開催しました。100を超えると、もうニンゲンであることを忘れます。頭のなかは朦朧としていて、新世界が浮かび上がっています。そしてこの世の音楽とは思えない不思議な音楽が、頭のなかを常に渦巻いているのです。その音楽を掴もうと思っても、掴みきれない。人間の世界を超越してしまった証拠なのでしょうね。**

**という具合で、実に洒脱で励まされるお便りであります。**

**私が何故このおじいちゃんのことを思い出したかと言いますと、それは、今日のロマ書が語ります、「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。」という勧めの、よい一例になると思ったからでした。**

**ローマの信徒への手紙/ 12章 01節**

**こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。**

**このおじいちゃんの体は、神に対してバイオリンを奏で、歌をうたう身体として捧げられています。彼は、神から自分に与えられた恵みを過大に評価することなく、慎み深く評価し、その恵みを、この私にも毎年分け与えて下さいます。彼は人に喜ばれようとか、自分を喜ばそうとしてそうしているのではなくて、そうではなくて、まさに神に喜ばれようとして、この私にも連絡を下さっているのです。彼の奏でるバイオリンはもう弾く力も衰え、客観的に聞けば、かぼそくて、物がすり合うような音でしかないかも知れません。しかし、その音色に私は大変励まされるのです。彼は本当にへこたれないのです。その姿に人は心打たれるのだと思います。彼はとても積極的であります。私が、仮に、頂いたメールに返信しないで放置したままであったとしても、彼は、又、向こうからご連絡下さることでしょう。そういうのが、私たち人間が主イエスから頂く恵みであり、強さであるように思います。**

**さて、今日のロマ書に書いてあります通り、私たち一人ひとりに主イエスから与えられた恵みと言うのは様々であります。その恵みを、比較してどっちが勝っているとか、素晴らしいとか比較することは出来ません。その恵みと言うのは、その都度、一人ひとりに与えらていくものでありましょう。その賜物と言うのは、ただ日々の生活の中で、イエス様と私との交わりの中で、恵まれていくものであります。そうして、最後まで「自分の十字架を背負って、イエス様に従いつつ、「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げながら毎日、礼拝して生きる者たちには、主イエスからの恵みが与えられ続けるということであります。**

**サタンは、私たちが十字架へ近づいていくその道のりの至る処に潜んでいて、私たちを誘惑して、私たちを十字架や、その次に用意されている、朽ちない命から引きはがそうとチャレンジしてまいります。その誘惑は枚挙にいとまがありません。人は目の前に安易に実現するバラ色の人生を示されると、そっちのほうに誘惑されていくものです。このバラ色の人生ということが、必ずしも悪いということではもちろんないですが、そこに、往々にしてサタンの計画が潜んでいるということを注意しなくてはなりません。**

**今日の、この敬老記念の礼拝の御案内を１１名の方々にお便りしましたが、其の案内ハガキにイザヤ書の46章3-４節を記しました。お読みします。**

**わたしに聞け、ヤコブの家よ／イスラエルの家の残りの者よ、共に。あなたたちは生まれた時から負われ／胎を出た時から担われてきた。**

**同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで／白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。**

**私たちは、母のタイに生まれる前から、主イエスによって守られ、そうして、十字架で死んだ後も、主イエスによって、朽ちない命に守られていく者たちであります。**

**私たちはこの真実をより固く信じ、御言葉に聞き従うことが出来ますよう、日々、礼拝をし、自らの体を主に、いけにえとしてお捧げする生活を続けて参りたいと願います。**

**祈り**

**主よ、あなたが私たち人間にたてて下さっている計画は、この地上で終わることではなく、永遠に続く、幸いの計画です。どうか私たちには不思議なその御計画を、私たちが固く信じ、あなたの奇跡の御業に日々預からせて下さい。**

**今日は特に敬老をお祝いする礼拝をお捧げしています。この世で長く信仰を保ち、あなたに生かされてきたお一人ひとりをあなたが、豊かに祝福して下さいますように。全ての人を、あなたの奇跡によって、朽ちない命に生かして下さいますように。**

**この地上には、自ずから多くの苦しみ、悲しみがあります。しかしあなたは、苦しみを楽しみに、悲しみを喜びに替えてくださるお方です。御子イエスが、私たちの為に背負って下さった、十字架の苦しみを今、覚えつつ、私たちが、三日後に、復活する喜びを言い表していく事が出来ますように。**

**この地上で、世界中で今、恐怖と不安によって、私たちを孤立させ、隔ての壁を築いて対立や争い、憎しみを助長する悪しき霊が跋扈しています。**

**どうか私たちが御子イエスの憐れみと慈しみの霊に身を委ね、御言葉の通りに、隣り人を愛する道を歩んで行くことが出来ますよう、この一週間も守り導いて下さい。**

**この夏は、この教会に多くの古くからの友人をお招き下さり有難うございます。どうか、私たちがこの方々との、交わりをたもち、ますます豊かに、天の国への道のりを共に歩み楽しむ者たちとして下さいますように。**